

# ～地域ぐるみで行う鳥獣被害対策支援事業～

## 〔令和4年度実施地区〕 川西町 東沢地区

### ■実施体制

- 実施主体：地域住民
- アドバイザー：古谷 益朗 氏（ネイチャーステーション代表）
- コーディネーター：置賜総合支庁農業振興課、川西町

### ■地区のプロフィール

- 地区内の戸数：160戸 うち農家数約75戸
- 主な被害作物：水稲、そば、WCS、じゃがいも等  
農地の掘り起こし
- 主な加害鳥獣：イノシシ、ニホンザル、ツキノワグマ、カモシカ



## 1. 取組のきっかけ

- サルは以前から山間部の一部エリアであるが毎年出没しており、クマは全エリアで毎年出没している。ともに農作物被害は少ないが、クマに関しては令和2年度に人身被害が発生するなど地域内で安全対策に向けてクマの生態に関する正しい知識を勉強する必要性を感じている。
- 数年前からイノシシの畦畔掘り起こし被害が見られ、最近では田んぼ内に侵入するようになった。令和元年度に初めてくくりわなによる捕獲（1頭）が成功し、以降毎年くくりわなで捕獲している（3～4頭）。個体数が増え被害が拡大する前に、地域で取り組める対策を検討したいと考え、本事業を実施することとした。

## 2. 取組の内容

- 事前打合せ(令和4年3月14日)  
研修会に先立ち、地区住民とアドバイザーで集まり、被害状況の確認や意見交換を行った。Web開催の為に現場確認までは実施できなかった。
- 第1回研修会(令和4年6月14日)  
アドバイザーによる講義「共通認識で守る！これからの鳥獣被害対策」を実施した。  
また、2か所で集落環境点検を行い、有害鳥獣の出没ルート等を確認すると共に、次回の電気柵設置研修の実施箇所を選定した。
- 第2回研修会(令和4年7月7日)  
被害圃場において参加者全員で電気柵設置の実習を行った。平場でなく山際の圃場のため、山側や水路など様々な点で難しさを実感した。
- 第3回研修会(令和4年11月18日)  
本事業の取組に対する総括と意見交換を実施した。電気柵設置により被害が出ずに効果を実感したが、山間部での設置の難しさや雑草対策の労力等の課題も出た。  
他市町からの参加者の意見を聞くことができ、同じ悩みや今後の対策の必要性など情報共有ができた。



講義 (R4.6.14)



電気柵設置 (R4.7.7)

## 3. 課題と今後の展望

- 鳥獣対策は「自分たちで！」の気持ちを忘れず、田畑に隣接する山の手入れであったり、場合によっては鳥獣の駆除であったり関係団体の協力を得ながら行っていく。
- 地域住民の協力のもとに出没マップを作成するほか、補助事業を活用して電気柵設置の普及推進を図るなど、自立した地域ぐるみの活動ができるようにしていきたい。